

2018 年度中部東ブロック・ユネスコ活動研究大会 in 諏訪
「Better World」
～より良い社会の実現をめざして～

大会報告書



【諏訪市立石展望台からの諏訪湖】撮影：五味 功

- 会 期：2018. 9. 29(土)～9. 30(日)
会 場：RAKO 華乃井ホテル（諏訪市）
主 催：公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 中部東ブロック・ユネスコ連絡協議会
長野県ユネスコ連絡協議会 諏訪ユネスコ協会
後 援：長野県 長野県教育委員会 諏訪地区教育委員会 信州 ESD コンソーシアム
信濃毎日新聞社 長野日报社 市民新聞社 LCV

開催趣旨

本大会のテーマは「Better World」～より良い社会の実現をめざして～としましたが、これはユネスコの理念、「世界平和の実現」へ向けて私たちが志していかなくてはならない大きな目標です。

現在私たちの住んでいる地球は、世界は、日本は、そして身近な地域はどんな問題を抱え、どんな方向へ向かっているのでしょうか。

核の脅威による地球時計ではあと2分と示されています。いつ何が起こるか分からないその不安のただ中に私たちは生活しています。国と国が疑心暗鬼で相手を疑い、軍備を増強している状況です。

環境問題はさらに身近で深刻です。地球温暖化により、いくつかの島が、国が海に飲み込まれようとしています。また異常気象により、世界各地で大きな災害が起こっています。

そんなこんな中であって、私たちユネスコはどう対応していったらいいか大きな課題が与えられています。

本研究大会を通じてお互いに課題を共有し、「Better World」の実現に向かって考えを深めていけたら幸いに思います。

大会報告書

目 次

ご挨拶・ご祝辞	2-6
オープニング 縄文太鼓 茅野市立永明小学校	7
日本ユネスコ国内員会からの報告	8-10
記念講演	11-16
「絶滅鳥類の復元～コウノトリの場合～」 山岸 哲氏	
研究発表	17-24
Ⅰ. 「ESDへの取り組み」 信州ESDコンソーシアム	
Ⅱ. 「縄文科学学習の実践記録」 茅野市立永明小学校	
Ⅲ. 「青年評議員の取り組み」 日本ユネスコ連絡協議会	
懇親会	25
第2日目	26-30
◇ 次年度開催地挨拶（磐田ユネスコ協会）	
◇ 第69回定時総会における組織関連の決定事項及び報告事項	
◇ 日本ユネスコ協会連盟 世界寺子屋運動セミナー	
◇ 世界寺子屋運動30年の歩み	
◇ 世界寺子屋運動セミナー	
① カンボジアスタディーツアー	
② カンボジア寺子屋モニタリングツアー	



お礼のあいさつ

諏訪ユネスコ協会会長 矢崎靖雄

この度は、「中部東ブロック・ユネスコ活動研究大会 in 諏訪」に各地よりご参集くださり、心から感謝申し上げます。

たまたま台風 24 号が日本列島を縦断するというので、2 日目は 1 時間ほど短縮して閉会にいたしました。その後皆様方無事それぞれの地へお帰りになられたとのこと、安堵いたしました。

今大会は「Better World」(より良き社会をめざして)というテーマで開催いたしました。私たちがとりまく現代社会を振り返ってみた時、今こそこのテーマが必要であろうと考えました。

まずは国際情勢。国と国、宗教と宗教、民族と民族の対立。また差別と偏見、男女差別をなくすジェンダーフリー、貧困の問題等私たちの前には大きな課題が山積みです。ユネスコ憲章の前文が示す「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなくてはならない。」

このことばに私たち一人一人が思いを馳せ、まずは身近なところから実践していくことが大切ではないでしょうか。隣人に対して、社会的弱者に対して、自分の気に入らない人に対して「思いやりとやさしさ」「報酬を求めないボランティア・スピリット」等々。

次に考えなくてはいけないのが、環境問題。

異常気象は今に始まったことではなく、ずいぶん前からじわりじわりと私たちの周りに押し寄せてきています。昨今の異常までの暑さ、集中豪雨、予想出来ない台風の進路、未だに予知出来ない地震等々。おそらくこのままでいくと、あと 20 年 30 年後の地球は？

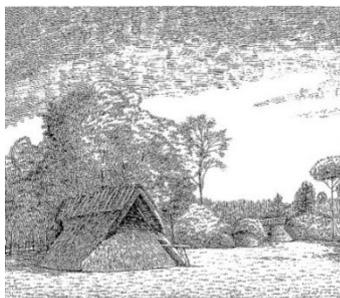
私たちは地球号にのっている地球家族です。ユネスコ家族です。そして何よりも大切なことは未来に生きる子どもたちに夢と希望を与えることだと思います。

国連では SDGs (エスディージーズ) (より良き社会を目指す 17 の目標) を決めました。この目標に取り組むのにユネスコスクールは最適です。

諏訪地区にはまだ小学校 1 校だけですが、これから協会員一同心して諏訪地区の各学校に働きかけていきたいと願っています。

今回の大会は計画・準備・実施等を通して私たちの心を 1 つの方向へと導き、協力することの楽しさを教えてくれたように思います。感謝です。

最後になりましたが、本大会に関わってくださいました全ての方々のご協力とご支援に深く感謝し、厚くお礼申し上げます。



尖石遺跡



仮面の女神・縄文のビーナ



井戸尻遺跡



ご挨拶

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟 会長 大橋 洋治

中部東ブロック・ユネスコ活動研究会の開催にあたりご挨拶申し上げます。

日頃より地域でユネスコ活動を推進していらっしゃる会員各位、並びにユネスコ活動にご協力いただいている皆さまに心から敬意を表し、御礼申し上げます。

昨年度は、今後の私たちの活動の指針となる「民間ユネスコ運動 70 周年 ビジョン・ミッション 2017 年～2026 年」を総会で採択し、学び、行動する民間ユネスコ運動として、教育分野に力を注ぎながら、平和の心を次世代へ伝えていく事を確認し、新たな一歩を踏み出しました。

近年、世界は、貧困、差別、偏見、人権の侵害、文化的・宗教的な不寛容の蔓延、紛争の拡大、無差別テロリズムの頻発、地球温暖化など、さまざまな課題と直面しています。また、国内では、少子高齢化、経済格差や世代間格差の拡大、東京一極集中、地域の過疎化の進行などさまざまな課題を抱えています。

先進国、途上国に関わらず、国際社会が抱える上記のようなさまざまな課題を解決するため、国連は「持続可能な開発目標（SDGs）」を新たに掲げました。2030 年までに、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和な社会の構築など、持続可能な開発のための諸目標を達成し、「誰も置き去りにしない」ために力を尽くすとしています。「民間ユネスコ運動 70 周年ビジョン」もこの「持続可能な開発目標（SDGs）」を踏まえて作成されており、特に、SDGs の目標 4「質の高い教育をみんなに」を中心ゴールに据えて、皆様とともに民間ユネスコ運動を推進していくこととなりました。

今年度のブロック研究会も、全国 9 ブロックで多くの会員の皆様やユネスコ活動に関心のある方の参加のもと、熱心な研修が行われることを期待しています。また、今年度の日ユ協連セミナーは、来年 30 周年を迎える「世界寺子屋運動」を中心に行い、スタディツアー参加者や、プロジェクトに携わる日本および現地の職員と専門家から寺子屋運動の生の姿と識字教育の最前線について一人でも多くの方々と情報共有をはかっていきたいと考えています。来年の 30 周年を機に、「世界寺子屋運動」について皆様とともに学びを深め、具体的な行動によって、さらなる発展を目指してまいりたいと存じます。

最後になりますが、本研究会の開催にあたり関係諸団体の皆さまには一方ならぬご支援を賜りました。また、長野県ユネスコ連絡協議会、諏訪ユネスコ協会の会員各位には、開催準備にあたり大変なご尽力をいただきました。この場をお借りして心から御礼申し上げますとともに、皆様のますますのご活躍とご健勝をお祈り申し上げ、私のご挨拶とさせていただきます。



歓迎のご挨拶

長野県ユネスコ連絡協議会会長

長野ユネスコ協会 会長 中野 清史

「2018年度中部東ブロック・ユネスコ活動研究大会 in 諏訪」の開催にあたり、主催県の代表といたしましてご挨拶申し上げます。

まず、中部東ブロックの各ユネスコ協会の皆様には、何かとご多用の中、今年度の研究大会にご参加下さり心より御礼申し上げます。また、諏訪ユネスコ協会の矢崎会長様、そして会員、ご関係の皆様には、ご準備その他におきまして大変にご尽力頂きましたこと、あらためて厚く感謝を申し上げます。

申し上げるまでもなく諏訪ユネスコ協会の歴史は古く、1954年8月の第10回ユネスコ全国大会は諏訪ユネスコ協会のもとで行われました。塚原会長様が亡き後、しばらく中断されておりましたが、故原会長様などのご尽力により2011年に再び活動を開始され、今年度のブロック研究大会が開催されましたことは、大変嬉しく存じます。

さて、昨年12月、第9回ユネスコスクール全国大会が大牟田市でありました。大牟田市では20の小学校、8つの中学校、特別支援学校1校を含め、すべての市立小・中・特別支援学校がユネスコスクールの認証を受けました。かつて日本一の出炭量を誇り世界遺産にも登録された大牟田市が、市域を超えて先進的な環境調和型のまちづくり（エコタウン）を推進していることも知りました。日本政府が世界に先駆け国際的な立場から推進することを提唱した「持続可能な開発のための教育（ESD）」の重要性を改めて認識した次第でもあります。また、後日ではありましたが、立地条件を生かした大牟田テクノパーク（工業団地）への環境リサイクル産業などの企業誘致など、新たなまちづくり、産業の振興に力を入れていることも教えていただきました。

全国で1,000校を超える学校がユネスコスクールの認定されていること、そして持続可能な社会の担い手づくり、育成の理念としてのESDが新学習指導要領の基盤の理念となりましたことは、ユネスコ活動においても大きな力を頂いたように思います。

今回の研究大会は「Better World（より良い社会の実現をめざして）」がテーマです。これからの時代を担う子どもたちや学校とのユネスコ活動の在り方、また地域との関係づくりなど、ユネスコ活動についての活発な意見交換により、持続可能な社会、地域づくりのためのユネスコ活動について何かヒントを共有することができれば幸いに存じます。

この2日間の研究大会が、今後の各ユネスコ協会のますますの発展、相互交流の促進に繋がりますことを願い歓迎のご挨拶と致します。



ご 祝 辞

長野県知事 阿部 守一

「2018年度中部東ブロック・ユネスコ活動研究大会」が、ここ諏訪の地において盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

また、日頃から、ユネスコ憲章の精神に基づき、青少年の育成や国際文化交流活動等に多大な貢献をされておられる公益社団法人日本ユネスコ協会連盟をはじめ、関係者の皆様に深く敬意を表します。

2015年9月の国連サミットにおいて採択された「SDGs（持続可能な開発目標）」は、国際社会全体の普遍的かつ革新的な目標であり、その実現に向けては、企業、行政、NPOなど様々なステークホルダーの参加や貢献が必要とされています。ユネスコ協会の皆様が、平和な世界の構築、持続可能な社会の推進のため、具体的なアクションプランを掲げ活動されていることは、SDGsの目標達成につながるものと確信しております。

また、「Better World」～より良い社会の実現をめざして～をテーマとして開催される本大会も、参加される皆様が日頃の実践の成果や課題を共有することなどにより、この目標達成への着実な一歩となることを期待しております。

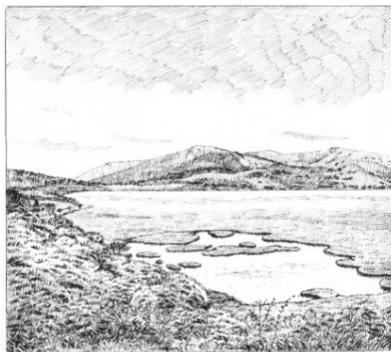
超高齢化社会の到来や急激な人口減少、AI、IoT、ロボットといったテクノロジーの急速な発達など、私たちを取り巻く環境は加速度的に変化しています。

このような環境の中で、新たな総合5か年計画に掲げた「確かな暮らし」の実現のため、「学びと自治の力」で新たな時代を積極的に切り拓いていこうとする本県は、国の「SDGs未来都市」として選定されました。引き続き持続可能な社会づくりに取り組むとともに、SDGsの理念を発信していきたいと考えております。

結びに、本大会の御成功と、皆様のますますのご発展とご健勝をご祈念申し上げて、お祝いの言葉といたします。



ハケ岳主峰赤岳



七島八島湿原



万暦の石仏



お祝いのことば

諏訪地区広域連合会会長 諏訪市長 金子 ゆかり

皆様、ようこそ諏訪市へお越しくございました。

「中部東ブロック・ユネスコ活動研究大会 in 諏訪」のご盛会をお慶び申し上げますとともに、各地からお越しの皆様を市民とともに心から歓迎いたします。

皆様が、ユネスコ憲章を礎に様々な社会活動に取り組み、ユネスコスクールの普及を通じて若者の育成にご尽力されていることに深く敬意を表します。

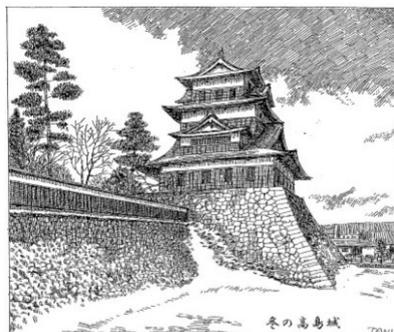
昨今の世界情勢では、自国優先主義、ミサイルや核実験、テロ事件などにより、安心安全な関係は遠のいており、ユネスコ憲章にうたわれる「世界平和」の精神が、今こそまさに必要とされる心のあり方だと感じております。その精神は長い年月をかけ、家庭や地域、学校における愛で育まれる賜物であります。それに加えて、皆様の取り組みにより、柔軟な感性と力強い行動力を持って、平和に貢献する人々が、地域社会の担い手として思う存分御活躍いただけることを願っております。

さて、諏訪市は、諏訪湖や霧ヶ峰、上諏訪温泉などの天与の自然資源や、諏訪大社や高島城をはじめとする歴史や伝統文化遺産に恵まれた高原の観光都市であるとともに、進取の気質とものづくりの伝統が息づく先端技術産業の集積地です。どうか本大会を機に、本市の魅力にも触れていただき、時間の許す限りお楽しみいただけたら幸いです。

結びに、本研究大会のご成功と皆様のますますのご健勝と御活躍をお祈り申し上げます。お祝いのことばといたします。



諏訪大社上社奉納相撲神事



高島城



諏訪湖の「御神渡り」神

オープニング

縄文太鼓

茅野市立永明小学校

縄文太鼓クラブ



今年度からユネスコスクールに認定されている茅野市立永明小学校の縄文太鼓クラブ（4年生～6年生）36名在籍の内20名がオープニングに出演してくれました。

「夏祭り」「楽」など4曲を力強く演奏し、歓迎しました。



日本ユネスコ連盟国内委員会からの報告

厚木ユネスコ協会副会長 石井 尚子



TOPICS① UNESCO 新事務局長

- ・第 39 回ユネスコ総会での承認を経て、ユネスコ新事務局長にオドレー・アズレー氏（前フランス文化・通信大臣）が就任。（2017 年 11 月 15 日就任、任期 4 年）

TOPICS② 22 件目の世界遺産登録

- 2018 年 6 月 24 日～7 月 4 日 第 42 回世界遺産委員会がバーレーンのマナマで開催
→日本から申請されていた「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界遺産リストへの「記載」が決定（日本で 22 件目の世界遺産）
- ・本委員会で 19 件（文化遺産 13 件、自然遺産 3 件、複合遺産 3 件）が新たに世界遺産リストへ登録、総数は 1092 件（文化遺産：845 件、自然遺産：209 件、複合遺産 38 件）
- ・世界遺産としての価値が危機的な状況にある遺産が登録されている「危機遺産リスト」は計 54 件となった

教育分野について ESD の推進について①

国連では、2015 年 9 月に SDGs（持続可能な開発目標）を定めました。2030 年までの国際的な目標を定めたものです。

これを受けて日本では、政府一体となって取り組むために、内閣に持続可能な開発目標（SDGs）推進本部を立ち上げ、SDGs 実施指針を決定。

日本ユネスコ国内委員会には、持続可能な開発のための教育（ESD）円卓会議が設置され、今後の ESD 推進方策に関する意見交換や 2 月 21 日の会議では「ESD の SDGs への貢献」をテーマに活発な議論が交わされた。

教育分野について ESD の推進について②

●ESD と SDGs の関連性について

- ・持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献する ESD 教育は SDGs の目標 4 に位置づけられ「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を保証し、生涯学習の機会を促進する」とされています。



また、ESD は目標の中のターゲット 4、7 に記載され、「持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能の習得に向けて取り組む」とされている。しかし、教育については「教育がすべての SDGs の基礎」「全ての SDGs が教育に期待」している。

ESD をより一層推進することが、SDGs の達成に直接・間接につながっているといえる（日本ユネスコ国内委員会教育小委員会でのまとめ）

- ・SDGs が掲げる 17 の目標（課題）を ESD の取り組みに取り入れ、今後の ESD 推進に役立てる
- ・SDGs を見据えつつ、学校や地域で足元の課題解決を大事に、ESD を推進していく

教育分野について ESDの推進について③

2018年7月27日付で新たに116校がユネスコスクールとなり1150校となりました
ユネスコスクールの新規加盟について申請手続きが大きく変わっています。

申請方法

- ① ユネスコスクール事務局 (ACCU) の加盟希望フォームより登録手続き
- ② UNESCO のユネスコスクールオンラインツールシステム (OTA) 申請
- ③ 原則1年間のチャレンジ期間 (ASPUniNet-の助言)
※ASPUniNet (ユネスコスクール支援大学間ネットワーク=現在20大学)
- ④ 活動報告書等を教育委員会へ提出→日本ユネスコ国内委員会→加盟申請
※詳しくはユネスコスクールホームページ
(<http://www.unesco-school.mext.go.jp/howtoapply/>) をご参照ください。

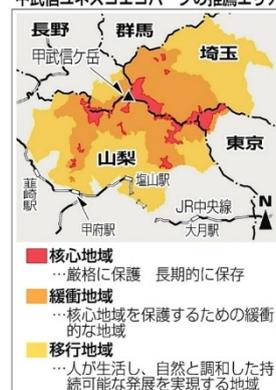
教育分野について ESDの推進について④

- ・ユネスコ/日本ESD賞
ESDの優れた取り組みを世界中に広めることを目的として日本政府の財政支援によって2014年に創設。
- ・平成30年度グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業のコンソーシアム一覧
今年度12団体が採択されています。
- ・第10回ユネスコスクール全国大会 (ESD研究大会)
平成30年12月8日(土)に、横浜市立みなとみらい本町小学校にて開催

自然・文化について ①ユネスコジオパーク

- ・4月17日、フランス・パリにて開催された第204回ユネスコ執行委員会において、「伊豆半島」がユネスコ世界ジオパークとして認定。「伊豆半島」は国内で9番目のユネスコ世界ジオパークとなる。

甲武信ユネスコエコパークの推薦エリア



自然・文化について ②ユネスコエコパーク

- 「甲武信(こぶし)」(埼玉県、東京都、山梨県、長野県)をユネスコエコパークに推薦する地域として設定。
- 2019年春ごろに開催される「ユネスコMAB(人間と生活圏)計画国際調整理事会」で登録の可否が決定される予定

普及広報について ①日本ユネスコ国内委員会広報大使について

- 5月11日、文部科学省について日本ユネスコ国内委員会広報大使の任命式を開催
- ・さかなクン(東京海洋大学名誉博士・客員准教授)
- ・平野啓子(語り部・かたりすと)
- ・末吉里花(エシカル普及活動家)



普及広報について ②普及活動小委員会について

- ・7月20日に普及活動小委員会を開催
最近の普及活動に関する報告や「我が国におけるユネスコ活動の更なる広報普及に向けて」を作成すべく、その骨子案について意見交換を行った
意見交換の内容
- ・各ユ協の活動報告（8ブロックの委員より）各地域の特色を生かした活動の報告をし合った。

「平和の砦」×「ESD」×「SDGs」

- ・SDGs（持続可能な開発目標）とは、「平和に暮らすことを阻むあらゆる状況」について、発展途上国、先進国を問わず国際社会が一丸となって解決していこうと掲げた、世界を変えるための17の目標です。
- ① SDGsを達成することは、地球上の「誰一人残さない」ことであり、世界の誰もが、安心・安全で安寧に暮らすことができる平和な社会を実現することです。
それはまさに『平和の砦を築く』ことに他なりません。
- ② 世界各国、各地域の人々の「持続可能な社会の実現」に向けた努力と取り組みの道標となる人類共通の目標がSDGsであり、そのための学びや人づくりがESD（持続可能な開発のため教育）です。
- ③ 民間ユネスコ運動に関わる全ての人が、以上のことを念頭に置き、SDGsの17の目標に関心を持ち、特に、SDGsの『目標4』の『教育』を意識しつつ、出来る事から具体的なアクションを起こしていくことが『平和な世界』につながるようになるのではないのでしょうか。

第143回ユネスコ国内委員会総会報告（平成30年9月21日開催）

◆我が国におけるユネスコ活動の状況について

- ① ESDに関する最近の動きについて
- ② 教育2030に関する最近の動きについて
- ③ 自然科学分野における最近の動きについて
- ④ 「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界遺産登録について

◆ユネスコ改革の現状と今後の対応について

- ① アズレー事務局長による、ユネスコ改革の状況について
- ② ユネスコ中期戦略(C/4)事業、予算案(C/5)策定に向けて



我が国のユネスコ活動の更なる広報普及に向けて

1. 現状と課題

- ・民間ユネスコ協会の数は全盛期の302から278に減少し、会員の高齢化や活動の縮小が課題となっている。また、ユネスコスクールの分布をはじめ、ユネスコ活動の地域的な偏在が認められる。
- ・SDGsをはじめ、様々な社会規範や達成目標が生まれ国内で主流化していく中、ユネスコ活動の意義や目標をどのように位置づけ、どのようなメッセージを誰に対してどのような方法で広報普及していくのかを明確にし、戦略的に実施していく必要がある。
- ・戦略的発言の強化、戦略的広報普及を推進する連携体制の構築が必要である。

【記念講演】

「絶滅鳥類の復元 ～コウノトリの場合～」

講師：山岸 哲氏 鳥類研究者



プロフィール

1939年長野県須坂市生まれ。信州大学教育学部卒業（京都大学理学博士）。大阪市立大学理学部教授、京都大学大学院理学研究科教授。山階鳥類研究所所長。新潟大学朱鷺・自然再生学研究センター長を経て、2010年から兵庫県立コウノトリの郷公園長。この間、日本鳥学会長、応用生態工学会長などを務める。1999年山階芳麿賞受賞。主な著書に『モズの嫁入り』（大日本図書）、『マダガスカル自然紀行』（中公新書）、『けさの鳥』（朝日新聞社）、『Birds Note』（信濃毎日新聞社）など。

日本の野生生物が大変危ない中で、私が専門にしている鳥がどのような状態であるかをお話します。

約700種の我が国の鳥類の2%を私たちは絶滅させてしまっている。13.1%が危ない・2.6%が準危ない・残りの82.3%がまあまあ。足しますと16%位が希少鳥類となっています。危ないのか危なくないかの物差しは何かというと、我々がよりどころにしているのは環境省が作ったレッドデータブックです。この本の中に何が赤で何が黄で何が青か書かれています。どこが絶滅危惧種かということIUCNのレッドリストのカテゴリーに従って絶滅・野生絶滅・絶滅危惧I A類・I B類・II類・準絶滅危惧・軽度懸念となっています。

今日お話しするのは、絶滅させてしまった場合にどうなるかという話をしたいと思うわけです。

世界と比べてみますと日本の鳥類542種の内89種（16%）が絶滅危惧種になっています。世界で見ますと9721種の内1186種（12%）が絶滅危惧種になっています。

危ないのか危なくないかの決め方は、国際自然保護連合（IUCN）の基準にのっとって日本も決めてるわけですが、絶滅寸前（CR）・絶滅危機（EN）・脆弱（VU）の三つを合わせて絶滅危惧種と言っている。

どうやって決めているかというと、成熟個体数がどれ位いるかという個体数の少なさで決めています。CRが日本のI A類に当たり50個体未満、ENがI B類で250個体未満、UVが1000個体未満となっていますが、単に数だけで決めるのではなくて、その分布域がどこに広がっているかとか、生息域がしっかりしているかとか、繁殖率が極端に下がっていないかとか、遺伝的多様性があるかどうかということなどを全部会議して決めろと言われていたんですが、遺伝的多様性がどうなっているかなんかほとんどの種類でわかりません。それから、繁殖率もわかりません。ですからなんで決めているかというと個体数が多いか少ないかによって決めている。



絶滅させてしまったものにハシブトゴイ・ミヤコシヨウビンとかこんなにあります。野生絶滅には、ト

評価	絶滅危惧種	説明	例
適応能力あり	絶滅	既に絶滅したと考えられる種	ニホンアシカ、ゴクラクインコ
	野生絶滅	飼育・栽培下などでだけ生存している種	ハワイガラス、シロオリックス
	絶滅危惧I A類	ごく近い将来の絶滅の危険性が極めて高い種	タイマイ、クロサイ
	絶滅危惧I B類	近い将来の絶滅の危険性が高い種	トラ、ニホンウナギ、ジャイアントパンダ
	絶滅危惧II類	絶滅の危険が増大している種	ホッキョクグマ、シロベエザメ
	準絶滅危惧	条件の変化によっては絶滅危惧種になる要索を持つ種	オオサンショウウオ
	軽度懸念	上記のいずれにも該当しない種	トナカイ、タイセイヨウサケ
未評価	評価するだけの情報が不足		

IUCNのレッドリストのカテゴリー

キが入っています。それから I A 類 (CR) の中に今日お話しするコウノトリも入っています。

絶滅危惧種の一番危ない赤というところにコウノトリが入っているということになるのですが、コウノトリって日本から姿を消したんじゃないのという方がいるかもしれませんが、まれにロシアの繁殖地より飛んで来るため、トキと同じで絶滅に入らずにコウノトリは I A 類に踏みとどまっているわけです。ただ、これはこれからお話ししますが絶滅させてしまった鳥ということになります。

絶滅の原因は何かと言いますと

- ① 生息環境の減少や悪化が 82%
- ② 狩猟や採集が 44%
- ③ 外来種の侵入によってしいたげられてが 35%
- ④ その他 (科学物質・天災) が 12%

これを見ると我々人間が生息環境を劣化させて絶滅に追い込んでいるということが、非常に多いんだということがこの結果から分かる。

希少鳥類を保護するには、

- ① 法的規制
- ② 生息環境の管理
- ③ 卵、雛と巣の操作
- ④ 給餌
- ⑤ 対立生物 (捕食者・競争者・寄生者) の管理
- ⑥ 導入 (野生復帰)

今日、野生復帰の話をするわけですが、野生復帰は最後の手段であって①から⑤までのまっとうなやり方で本当は人間が守ってやらなければいけないが、どうにもならなくなってしまった場合に導入 (Introduction) になろうかと思えます。

絶滅してしまった場合に導入には 3 つあります。(再導入・保全的導入・補強的導入)

日本で再導入されたもしくは準備中の種類としてどんなものがあるかというのとトキ・コウノトリ・アホウドリ・ライチョウ・ヤンバルクイナなどが挙げられている。

コウノトリってどんな鳥、立っていると 1.1m、羽根を広げると 2.2m、体長が 1.4m、体重オスが 5kg、メスが 4 kg。鳴き方はクラツタリング (カスタネットみたいに上クチバシと下クチバシをカタカタと打ち鳴らして声を出している)。卵は 4 個から 5 個を産みます。大きさはニワトリの卵よりちょっと大きい位、約 1 ヶ月抱卵すると卵からかえりませ。



昔はどこでやっていたかという、大きな松の木の上で繁殖していました。餌場は水田です。その水田は、田んぼと水路が同じ高さでつながっていた。ですから、生物は田んぼの中を自由に行き来していた。田んぼの中で餌を再生産していた。これが大事なことです。

今は松の木が無いですから電柱のようなものを立てまして、その上に皿のようなものを置いてその上で繁殖させています。



コウノトリは何を食べているのか、コウノトリの食べ物図鑑です。死んだコウノトリの食道から出てきたのは、イナゴやドジョウです。食性を調べるのにコウノトリを殺すわけにはいかないので、実際に食べているものを観察して何を食べているかを見ている。

トノサマガエル、ウシガエルなどかなり大物を食べる。バッタ、イナゴ、ザリガニ、ハタネズミ、シマヘビ、フナ、ナマズ、ウナギ、ヒラメ、ウミヘビ等を食べている。

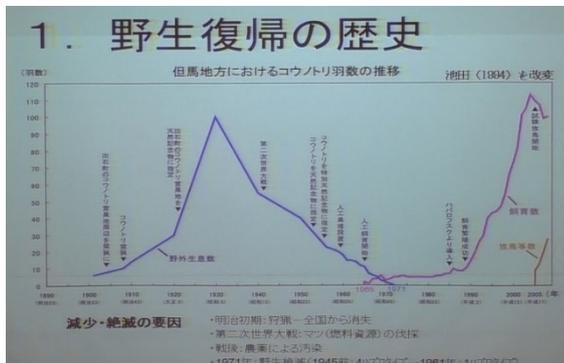
次にどうして絶滅させてしまったのかと言いますと、江戸時代の絵から江戸の羅漢寺の屋根にコウノトリが繁殖していた明治 10 年頃には国内のいろんな所、北海道から九州まで繁殖していた。明治中期になると狩猟によって少なくなってしまう昭和 41 年兵庫県豊岡市のみ 1 ヶ所になってしまった。昭和 46 年には完全に

繁殖地は日本から無くなり絶滅してしまいました。

今年6月6日現在でどうなっているかというと郷公園で100羽を飼っている。全国の動物園で約100羽飼っている。野外で暮らすものが124羽います。

野生復帰の歴史ですが、明治時代にもものすごく減ってしまったのを一生懸命天然記念物にして守って一旦は増えたが戦争等によってガーンと減ってしまい1971年に完全に絶滅して日本からいなくなりました。

1980年代にロシアより3歳4歳の元気の良いコウノトリを借りてきて繁殖を試みて初めて成功した。その後10年15年位で飼育のコウノトリが100羽まで増えました。100羽になったのでそろそろ外へ出しても良いだろうということで2005年に5羽を初放鳥し今日に至っている。



絶滅した要因が4つあり、一つ目は明治初期に狩猟により全国から消失。二つ目は第二次世界大戦による燃料資源にした松の伐採により巣柱が無くなってしまった。三つ目は戦後農薬による汚染、最後のコウノトリが死んだときに学者が解剖して分析したところ重度の水銀が身から出て来た。最後にとどめを刺したのが農薬ということになります。それより大きな要因は1971年に野生絶滅した時、遺伝的に1945年は4ハプロタイプあったのが1961年には1ハプロタイプになってしまいました。

日本にいる全てのコウノトリには足輪がついています。特定のものにはGPS発信機が付いていますが、雛も親も全てに足輪がついているからどこにいても誰だということがわかり、親が誰で何歳か性別が何か分かる。

2005年に7羽放鳥し、2017年には124羽になり100羽超えました。今年は130数羽になりました。

島根県雲南市に青い丸（産卵した場所）が付くまで、いったいどんな歴史があったのかをお話しします。

今年私は「げんきくん物語」という小中学生向けの野生復帰に関する本を上梓しました。この内容に沿ってこれからお話ししていきたいと思います。

げんきくんは福井県生まれ。1970年福井県に大陸から1羽のメスのコウノトリがやって来ました。日本中が驚いた。しかし、喜んだのもつかの間、観察していた人からあるショッキングな事実が知らされました。そのコウノトリは下くちばしが途中から折れてしまっていたのです。このコウノトリは少しずつ弱っていきました。そして「兵庫県にあるコウノトリ飼育場に運んでもらおう。」ということになり、現在のコウノトリの郷公園の前進である「コウノトリ保護増殖センター」に運ばれました。



コウノトリの郷公園に移送されメスのコウノトリは「武生^{たけふ}」と名付けられました。武生市は今の越前市。そして、飼育下で34年間生き続け、2005年にその生涯を閉じました。その間に1羽の子どもを生み、現在までに11羽の孫を残しました。これが、福井県と兵庫県との絆の始まりです。

そこで福井県が何を考えたかということ豊岡と同じようにコウノトリを飼って、そこから子供を産ませてそして福井の空に帰そうという計画をされた。そのために旧武生市現越前市にコウノトリ小屋を作り飼うことにしました。飼うといってもコウノトリはいませんか



ら郷公園からツガイを貸してくれという依頼がありました。

ふっくんとさっちゃんの2羽のコウノトリを福井県にお貸しました。1年目は卵を産みませんでした。翌年、もし産んでも無精卵だったらどうしようと考えました。もし無精卵だったら郷公園の有精卵を運んですり替えて子供を産ませようと作戦を取りました。翌年5卵産みました。それを検卵しましたがやはり無精卵

でした。

郷公園のARペアが産んだ3つの有精卵をふっくんとさっちゃんの無精卵をすり替えました。2014年6月14日にかえたのが「げんきくん」弟の「ゆうきくん」、そして16日は妹の「ゆめちゃん」も誕生しました。郷公園に里帰りして飛翔訓練します。郷公園は東京ドーム23個分があります。飛翔訓練、採餌訓練をしました。

夏に福井県に帰して、福井県では何をしたかというと背中にGPS発信機をのせて放たれるのを待った。

2015年10月3日に福井県越前市にて放鳥しました。

げんきくんは日本中を飛び回り韓国・北朝鮮にまで行ってまた日本に帰ってきました。島根県雲南市大東町にやってきました。

げんきくんはここが気に入ったようです。11月の青い空をげんきくんはくるり、くるりと飛び回りました。そして大東町が見渡せそうな山際の集落に向かって徐々に高度を下げ、その集落の中に立つ一本の電柱の上に止まったのです。

「よし、ここで暮らすぞ。」



げんきくんは、いつの間にかくちばしを天高く突き上げてクラッタリングをしていました。

「カタカタカタカタタタタ……」

「ここは、僕のなわばりだぞ！」

げんきくんは、ここで暮らす決心をしたのです。

2015年10月3日に、福井県を飛び立ってから405日目、飛行距離が12000km以上におよんだ大冒険旅行の終わった日でした。そして、この飛行距離はなんと

日本列島をぐるっと一周する距離だったのです。

そこへ豊岡市生まれのメスのななちゃんがやって来て仲良くなりツガイになりました。

ここには巣灯がないので中国電力の電柱に巣灯を作りました。ここで卵を産んで育てるんですが、なとななちゃんはサギの駆除で間違えられて誤射され死んでしまいました。

野外で暮らすコウノトリに人間が手を貸すのは、本来、好ましいことではありません。母親を失ったげんきくんの子どもたちを救護するかどうかは、コウノトリの郷公園ではなく、雲南市が決めることです。雲南市は、コウノトリの郷公園にヒナの救護を依頼してきました。げんきくんの子どもを郷公園で預かることになりました。

中国電力が高所作業車を出してくださいまして、4羽の子どもたちは1羽ずつタオルでくるんで、地上におろされました。この救護作業中にJR西日本の木次線のスタッフは、げんきくんの子どもたちを驚かせないように、幡屋駅と出雲大東駅の区間の電車の運行を中止し、電車利用者はその間、バスで振り替え輸送行こうという対応をしてくださいました。

船越飼育員は、ヒナが里子に出されてきて 5 日後には「コスチューム飼育」を開始しました。

「カタカタカタカタ。」

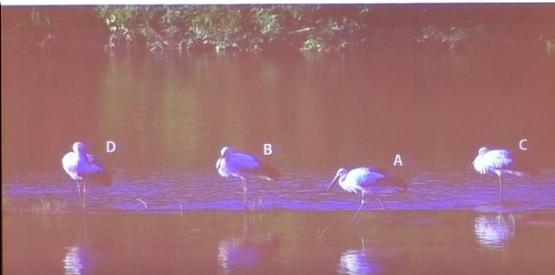
手に持ったパペットを鳴らしながら、ヒナの部屋に入りました。人間の言葉にすれば「ただいま、今からすぐご飯にするからね。」というところでしょうか。ヒナはどんな反応をしたでしょう。

「キュウキュウ、ギョルルルル。」

ヒナは甘えた声を出しました。全身が真っ白で、親鳥の頭部まで持った船越飼育員のことを、すっかり親鳥と思い込んだようです。手に持ったパペットのくちばしの先を、ヒナはめいめいにつつきながら、「キュウキュウ。」とかわいい声を上げてエサをねだり始めました。

羽根からDN鑑定オス3羽メス1羽ですよと雲南市に報告しました。

雲南市が幼鳥の名前を市民から公募して、げんちゃん(オス)、姫ちゃん(メス)、うらくん(オス)、春希くん(オス)と名付けられました。



島根県雲南市大東町養賀の田んぼに、4羽とも無事に放鳥しました。

げんきくと3羽の子供が再会します。しかし、げんちゃんの姿が見当たりません。実は鳥取県鳥取市の田んぼの用水路で死んでいました。解剖したところ胃の中に細長い発砲ゴムの大きな黒い塊が入っていました。

さて一人になってしまったげんきくんは誰と一緒になったと思います。ポンスニと再婚しました。

今年の話ですが卵を産んで、今年こそは自分たちで子育てをしてほしい。

「あっ飛んだ。ママ、コウノトリが飛じよる。」
「ホントだが、飛じよる飛じよる。お父さんも見て。」
「いやあ、まげなねえ(みごとなものだ)。コウノトリは飛じよる姿がいちばんだけん。」

みんなの頭上をげんきくんはくるり、くるりと回りました。白と黒の翼をピンとはり、首をまっすぐに伸ばして飛びました。

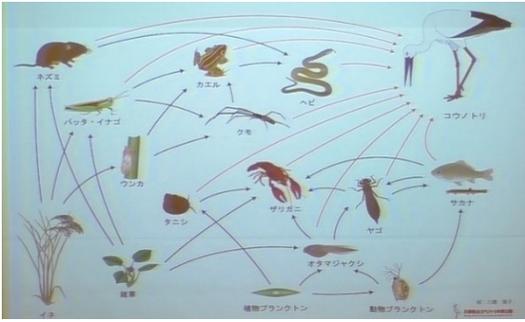
今年げんきくんの子ども4羽は、2018年6月元気に巣立ちました。



一方、野生復帰させるということは安心安全なお米を作らなければいけない。地域の人々が有機米・無農薬の水田を作ってくれている。この米がまた売れていて、1.2倍から1.5倍で完売している。コウノトリにもいい農家の人にもいい両方がWinWinの関係で成り立っています。



国交省は近くの丸山川に湿地を造成して、コウノトリの採餌地を一生懸命造っています。田んぼは整備され、魚道を作って魚が行き来できるようにしました。川に堰があると魚が登れません。堰をとって堰のない連結性を良くして努力しています。



コウノトリが住めるようにするということは、コウノトリが直接食べているものはヘビ・カエル・バッタ・イナゴ・サカナ等を食べています。コウノトリは稲も雑草も植物プランクトン・動物プランクトンも食べませんが、コウノトリが生きていくためには、生態系全体図を我々が取り戻さなくてはならないということになります。

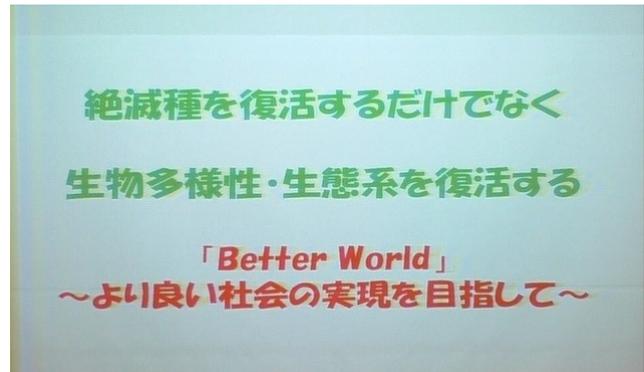
環境省のレッドリストの話で今日の話が始まったので、これで締めたいと思います。現在は絶滅危惧ⅠA類(CR)でしたね。CRというのは成熟個体50個体未満です。現在100羽を超えました。調べてみるとその中で成熟個体3歳以上は50個体になっています。

今、ランクが1つ下がる入り口に来ていますが、すぐにランクが下がることはありません。5年位同じ状態が続けばランクがダウンするでしょう。

今日、最初にお話した希少鳥類の一番難しいところを脱するところが見えて来ます。入口に差ししかかって来ているところが正直なところだと思います。

コウノトリを結局取り戻すということは、絶滅種を復活させることはもちろん1つの目的としてありまして、これは成功しかけているわけでありまして。

それだけでなく生物多様性・生態系を復活すること、こちらの方がかえって大事なわけでありまして。



そのことを「Better World」～より良い社会の実現を目指して～今大会のテーマのきつと1つにあたるのではないのでしょうか。



研究発表

(I) 「ESD のへの取り組み」 信州 ESD コンソーシアム

① 信州 ESD コンソーシアムについて

信州大学教育学部 安達 仁美

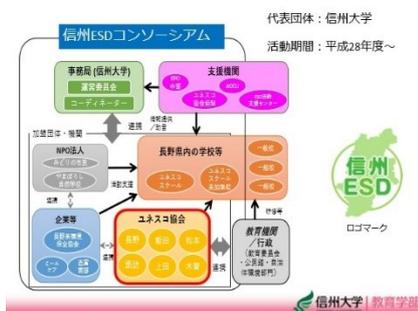


文部科学省：日本ユネスコ国内委員会の事業として平成26年度からスタートとしているグローバル人材の教育に向けてESDの推進事業があります。

【目的・内容】 教育委員会及び大学が中心となり、ESDの推進拠点であるユネスコスクールとともにESDコンソーシアムを形成し、地域のESDの実践・普及及び国内外におけるユネスコスクール間の交流等を促進する。

コンソーシアムとは… 互いに力を合わせて目的に達しようとする組織や人の集団。共同事業体。

例としては、地域ユネスコ協会、企業、NPO、社会教育施設（公民館等）と手を組んでユネスコスクールと共にESDの普及促進に向けて活動して行く。



ESDコンソーシアム形成の動き

信州大学：信州ESDコンソーシアム、横浜市教育委員会：横浜市ESD推進コンソーシアム、静岡大学：ESD・国際化 ふじのくにコンソーシアムの3つがこの地域に関係するコンソーシアムがある。

信州ESDコンソーシアムについて

事務局が信州大学。ユネスコ協会6協会が協力している。長野県のユネスコスクールは16校。

これまでの活動

学校や自治体での研修会・講演会を実施している。学校で扱っている学校指導要領が改定されてESDに関連する項目も盛り込まれました。どういうふうに学校教育の中でESDを実施していくかについての研修会などを学校に行ったり、または大学で開催して来てもらったりしてやってきました。

そして、ESDに関する指導者の養成ということで信州大学では、4年に一度行っている社会教育主事講習の中で、昨年主事を目指す方にユネスコのESDウィークでユネスコに関する対応で研修を含めてやりました。

毎年、年末に交流会・成果発表会を実施している。長野県内のユネスコスクールの児童・生徒さんに大学に来ていただいて、一年間そういう活動を発表している。

信州ESDコンソーシアムのこれまでの活動

学校や自治体での研修会・講演会の実施



信州大学 | 教育学部

長野県中野西高校 & 長野ユネスコ協会青年部つながる



◎中野西高校の「ESD倶楽部」とユネスコ青年部とのコラボ
◎ESDとSDGsについて学ぼうワークショップを企画

信州大学 | 教育学部

信州大学教育学部附属松本中学校 & 長野ユネスコ協会青年部つながる



◎ユネスコ協会青年部が主催した異文化理解企画に参加
◎生徒会を中心に全校で取り組むESD活動について相談

信州大学 | 教育学部

信州ESDコンソーシアムの今年度の活動

交流会・成果発表会

中南信 2019年1月26日(土)
信州大学松本キャンパス
北東信 2019年2月2日(土)
信州大学教育学部キャンパス



◎「信州ESD通信」の月1回の発行

◎Webサイトでの情報発信
(「信州ESDコンソーシアム」で検索)



信州大学 | 教育学部



昨年の3月に約1週間インドネシアに行って来ました。今日は、今回のプログラムを通して学んだことや感じたことを発表します。

突然ですが皆さんは、山ノ内町をご存知ですか。山ノ内町というとピンとこないかもしれませんが、志賀高原や地獄谷野猿公苑などという聞いたことがあると思います。私はその山ノ内町に住んでいます。

観光地ではありますが観光客の数は年々減って来ています。さらに山ノ内町は高校生の私には想像できない沢山の借金があります。私はこの現状を小学校の総合学習で知りました。

小学校ではクラスみんなで対策を話し合い、PRのためのCMを作成しました。中学校では、平和学習をしたり町の平和親善大使として、広島で行われた平和記念式典に参加したりしました。

高校では国際教養科に通っていてアクティブリッシュという英語でプレゼンをする授業があります。この授業の卒業論文で山ノ内町の課題について取り上げ自分の考えを発表しました。



これらの活動を通してこのままでは私の大好きな山ノ内町に未来は無いと思いました。私は自分の古里である山ノ内町のために何かをしたいと考えました。まず初めに目を付けたのは、地区のお祭りです。10代20代の参加率が低いと思い盛り上げるために神楽保存会に入りました。しかし、その保存会には女性も学生も所属していません。後継者不足で大変困っています。これだけでは山ノ内町の活性化にならないと思いました。

そこで第8回ESD国際交流プログラムに参加することで、何か私が地域の為に出来ることを見つけるヒントが得られるのではないかと思います。応募しました。

参加した目的

- 1、ESDという点でインドネシアではどんな活動をしているのかを知る。
- 2、活性化に成功した地域での活動を学び、山ノ内町に持ち帰る。
- 3、地区の神楽を若い世代に伝えるためにできることを見つける。

今回のプログラムでは全国から216名の高校生が応募しその中から12名が選ばれ参加しました。

インドネシアは東南アジア南部にあり赤道をまたいで13000以上の大小の島で構成されている国です。今回は首都のジャカルタとジョグジャカルタに行きました。

ジャカルタでは日本大使館このプログラムに協力して下さった三菱UFJ銀行、UNESCOジャカルタ事務所などを訪問しました。ジョグジャカルタではガジャマダ大学、伝統家屋、マリオポーロ市内、世界遺産ポロブドゥール遺跡、王宮などを見学しました。また、SMA



8の生徒とウイズダムパーク・バティック・カカオ農園・ダムなどの見学交流会、討論会を行いました。



バティックはインドネシアで染められているローケツ染めのことです。古くから伝わる手法で1枚1枚手作業で染められています。2009年には無形文化遺産に登録されインドネシアの国宝でもあります。私たちも実際にローケツ染めを体験しました。



どうして伝統を繋ぐことが出来たのか、また若い世代の人たちに伝統を伝えて行くためにどんな取り組みをしているか質問しました。

この村でも小学3年生からバティックは必修科目で授業があるそうです。また、バティックの大会があるそうです。そうした子供の頃からの経験によって大人になっても学んできたことを忘れずに伝統の手法を伝えていけるのだそうです。

バティックの村で学んだこと

- ・ 伝統を繋いでいくためには小さいころからたくさん触れておくことが大切。
- ・ 「伝統を継がない」という意識より、楽しく伝統と触れ合うことが必要。

神楽の継承にも応用できるのではないか

2 つ目はガジャマダ大学でバユさんとの交流です。バユさんは、和歌山大学の留学生だった。イスラム教徒なので、お祈りする方角、時間などを自分で調べた。今では和歌山大学には礼拝所ができたので、お祈りできる。

バユさんとの話で感じたこと

- ・ 日本はもっと宗教に対して寛容になる必要がある。
- ・ 食事などにも配慮した方がいいのではない か？

海外からの観光客が多い 山ノ内町にも必要？



全体を通して

- ・ 山ノ内町と海外を繋ぐ存在になりたい。
- ・ 様々な視点から物事を見ることができるようになった。
- ・ 今あるものを活かしながら活性化させる方法を考えなくてはならない。

キーワード
Think Globally, Act Locally

世界に目を向けて、地域のために行動出来る人になりたい。



山ノ内町にある小学校・中学校はすべてユネスコスクールに加盟しています。つまり学生の頃から ESD の教育を受けてきた人材がたくさんいます。そんな学生たちが大人になった時に他の市町村に出て行ってしまわないような町づくりが大切です。

また、私は高校3年生なので卒業後の進路を決定する時期です。地域政策について学べる学部を考えています。とてもありがたいことに小・中・高校と全て

ユネスコスクールに通うことができたので、小・中・高校で学んできたこと今回のプログラムに参加して学んだこと、それから大学で学ぶことなどを生かして山ノ内町の活性化に携わっていただけたいと思います。

研究発表

(Ⅱ) 「縄文に学ぶ」

茅野市立永明小学校教諭 吉川 豪



① ふるさと茅野市

茅野市の改札口を出ると2体の縄文土偶の看板がお迎えしてくれます。
駅の東口を出るとさらに大きな土偶がお迎えしてくれます。

② 永明小学校

全校児童およそ600人、各学年児童数100人前後、平成30年度のみ4学級ほか3学級、
知障3学級、自情障2学級、難聴1学級、LD等通級指導教室、ことばの通級指導教室

永明小学校 校歌

2番 豊かなる 上川の岸
縄文の炎 うけ継ぎ
永明に学ぶ子の力はたきる
ひとすじに 光求めて
われらまた 文化を開く

学校目標 『ともに拓く』～なかよく・かしこく・たくましく～
『つむぎ合い』

2015年(平成27年)よりコミュニティ・スクール



③ 「縄文科」学習

- ・茅野市全小中学校で生活科や総合的な学習の時間を中心に地域素材を学習材として
- ・茅野市で作られた「縄文かるた」で遊んだり、縄文考古館を見学したりすることを通して、縄文時代の人々の生活やここまで研究をしてきた方のことを学ぶ。

ねらい

- ・地域を愛する心を育み、郷土に愛着と誇りをもって生きようになる。

縄文かるた

- ・「縄文科」学習の入口 茅野市で作られたかるた

問い

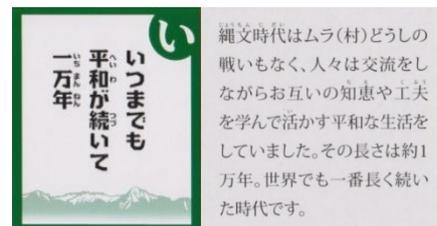
- ・なぜ「1万年も平和が続いた」のだろうか。
- ・土偶や縄文土器をまねて作ってみよう。
何のために作られたのだろうか。
- ・縄文人の衣食住は？
- ・装飾品は？
- ・お金はあったのか？



④ 昨年度の「縄文科学」学習

1 学年

- 1) 縄文かるた (保育園時代に)
- 2) 縄文のビーナスって？
「玄関にある人形？」なんてつくったのかな？
- 3) 今の時代の「永明のビーナス」をつくろう
ビーナスを身近に感じた縄文の人に興味をもった



縄文時代はムラ(村)どうしの戦いもなく、人々は交流をしながらお互いの知恵や工夫を学んで活かす平和な生活をしていました。その長さは約1万年。世界でも一番長く続いた時代です。

2 学年

- 1) 縄文のビーナス・仮面の女神
調べてつくってみよう！
- 2) 縄文ランプをつくろう！
粘土で「縄文ランプ」づくりに挑戦
「取っ手が縄みたい」
灯りをともして



3 学年

- 1) 「火おこし」
火種を空中で振り回して



4 学年

- 1) 「ひょうたん」が遺跡から！
・ひょうたんがどうして縄文時代にあったのか
・ひょうたんの花が咲くのは…
・縄文時代の人たちも知っていた？

5 学年

- 1) 中ッ原遺跡見学
- 2) 土鈴作り
- 3) 野外炊飯の火おこし
- 4) 縄文検定に挑戦
与助屋根遺跡（復元住居）
尖石縄文考古館で縄文文化の生活について学ぶ。



6 学年

「土染めTシャツをつくろう！！」
茅野市の土を原料とした色水で

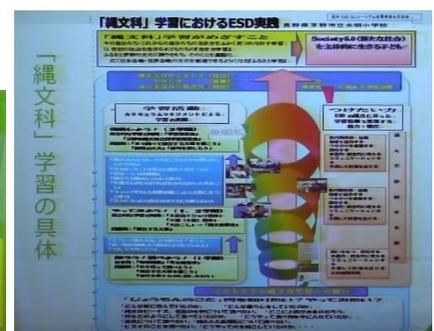
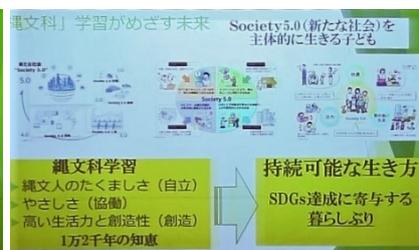
⑤ 「縄文科学」学習におけるESD実践



茅野市立永明小学校教諭 福島 佳之

- ◆ 縄文人のたくましさ（自立）
 - ◆ やさしさ（協働）
 - ◆ 高い生活力と創造性（創造）
- これからの精神性に触れる学習活動

- ・今の自分たち、これからの自分たちの生き方を深く見つめなおす学習
 - ・21世紀の社会を生きる子どもたちの『生き方学習』
 - ・ふるさと茅野市の文化に誇りをもち、そのことを基盤に広く日本各地・世界各地の文化を創造できるようになる『ふるさと学習』
- 「縄文科」学習が目指す未来



⑥ 縄文科学習発表

～縄文人の暮らしと私たちのつながり～

茅野市立永明小学校 4 学年



「永明小学校は市街地に一番近い学校です。」
「社会科地域の探検で駅に行くところなのに大きな縄文のビーナスや仮面の女神のポスターや像が立っています。」
「マンホール・バス・電柱には絵みたいのがありました。」
「茅野市が『縄文』をたいせつにしていることがわかりました。」

図書館を使って調べる学習

「縄文時代の食事について興味をもちました。」
「縄文時代には食事をつくるのに火を使っていたことがわかりました。」
「そしてこんな本を見つけましたドングリクッキーの本です。」
「縄文時代にはドングリを食べたり石をフライパンにして焼いていたりしていたそうです。」
「縄文時代の人たちを同じようにドングリクッキーを焼いて食べてみたいと思いました。」

縄文かるた

「縄文かるたからも火を使っていたことを学びました。」



縄文人が大切にした火

- ◆ 火→「あつい」「あぶない」
 - ◆ 「暗いところを明るくする」「寒いときは温かい」「料理ができる」
- 生活に必要なもの
「縄文時代の人はどうのようにして火をおこしていたのだろう。」

火おこしをやってみた

「自分たちの力で火をおこせたことに感動しました。」

縄文食事会

「焼けた石を使って、干し芋をあぶって食べてみました。」

火おこしの学び

- ◆ 「コミュニティースクールの矢島さんから教わった。」
- ◆ 「大人になったら自分の子どもに教えたい。」
- ◆ 「キャンプや万が一の災害の時、役に立つ力だと思う。」
- ◆ 「縄文の人たちも、初めて火をおこせたときはうれしかったらうな」
- ◆ 「火をどうやって使おうか考えてんじゃないかな。」
- ◆ 「火をおこすことを考えた縄文人はすごい。」
- ◆ 「協力して火をおこすことができた。」
- ◆ 「一人では無理なことも力を合わせればできる。」
- ◆ 「昔の人たちも色々なことを協力していたと思う。」



⑦ 世界へつながる活動

- 1) 学用品を必要としている
- 2) 「世界寺子屋運動」DVD視聴
- 3) 書き損じハガキ「ひとり1枚運動」

自分ができること協力しよう！

自分がしたことが 世界へと つながっている

主な活動内容

(1) 「世界寺子屋運動に参加しよう」

- ① 諏訪ユネスコ協会会長による講演会や世界寺子屋運動 DVD の視聴を通して、世界各地には教育の機会に恵まれず、学用品を必要としている人々がいることを知る。
- ② 書きそんじハガキ1枚が約47円分になること、それが学用品となり世界各地に届けられる「世界寺子屋運動」（書きそんじハガキ「ひとり1枚運動」）があることを知る。
- ③ 書きそんじハガキ「ひとり1枚運動」に協力しようとする気持ちやユネスコサポーターとしての自覚を持ち、ハガキ収集に取り組む。
- ④ 児童会本部を中心に、地域の方へ書きそんじハガキ収集の協力依頼を行う。

※使用教材 世界寺子屋運動 DVD、Web ページ「世界寺子屋運動（公益社団法人日本ユネスコ協会連盟ホームページ）」

平成29年度は、ハガキ回収ボックスを置き2月初旬までに300枚を超える書き損じハガキが集まり、ユネスコ協会より感謝状をいただいた。事実を知り、興味をもち、自分のできることから行動に移そうとする姿が見られた。また、自分たちの活動が世界へと繋がっていることを感じる事ができた。



(2) 「永明の日」（学習発表・地域公開の日）と全校つむぎ合い講座

- ① 学級ごとの学習発表、全校で積み重ねてきた歌声を披露し保護者、地域の方と歌う「うたごえタイム」、児童や地域住民が活動してきた「縄文太鼓」の演奏を行う。学習発表では、環境教育プロジェクトや地域学習プロジェクトを中心に、学習（各教科、総合的な学習の時間）してきた歩みと成果を、保護者や地域の方に公開する。
- ② 「永明の日」にコミュニティ・スクールつむぎ合い講座部会主催の児童・保護者・地域住民対象の「全校つむぎ合い講座」を開催し、地域の歴史や文化などについて学ぶ。

平成29年度は、永明小を卒業しベルギーの方と結婚して日本に暮らすご夫妻と息子さんに、「やってみなければわからない」～日本や外国でチャレンジしてわかったこと～ と題して、講演をしていただいた。

外国の文化に触れ興味関心をもったり、陸続きのヨーロッパの学校事情が日本と異なることを知ったりできた。また、「日本や茅野市のよさ、素晴らしさ」について、お話をしていただき、自国や郷土に誇りをもつ機会にもなった。



2017年(平成29年)ユネスコスクールに！

ユネスコスクール元年

「ユネスコ活動を活性化させるためのイベント出展の手引き」のご案内

中部東ブロック青年評議員／青年理事 長坂 亮介



そもそも青年会員とは…??

- ・日本国内のユネスコ協会・ユネスコクラブに所属する **15～35 歳の会員のことを「青年会員」と**呼びます。
- ・**全国 9 ブロックにそれぞれ 1 名ずつ「青年評議員」**を選出することができます。

青年評議員は各ブロックの青年の声を収集すること、評議員会で提案された内容を青年に周知する役割があります。

(評議員会は年 3 回)

- ・全国ユネスコ協会・ユネスコクラブに所属する青年が自動的に所属することになる **ネットワーク組織**です。

主な活動内容

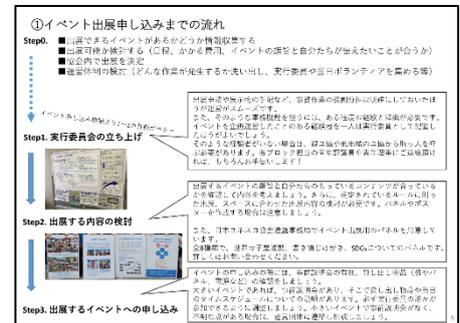
- (1) 全国及び地域のユネスコ運動活性化のために青年ネットワークを維持、強化する。
- (2) ユネスコ運動に関する青年の意見を集約し、民間ユネスコ運動の促進をはかる

「ユネスコ活動を活性化させるためのイベント出展の手引き」

- ① 大人と若者が協働できる場が欲しい！
- ② 青年活動を活性化させたい！
- ③ 青年がいない！

ポイント① イベント出展したことで得られた成果

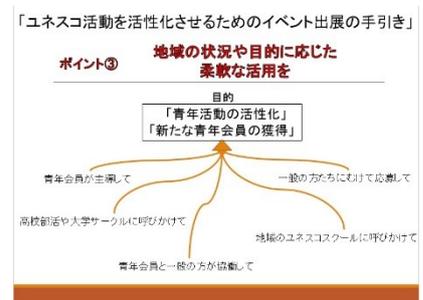
- ・「ユネスコのことを深く知るきっかけとなる」
- ・「より多くの若者にユネスコを知ってもらうきっかけになる」
- ・「他団体の活動を知ること自分たちの活動を振り返ることができる」



ポイント② イベント出展をしたことがなくても、当日までの流れがイメージできる！

「イベント出展してみよう！」と思ったその時から、

- ① 実行委員会を立ち上げ、
- ② イベント出展の申し込みをし、
- ③ スタッフを募集して、



イベント出展をきっかけにユネスコに関する知識を増やし、仲間を増やし活動の活性化につながることを目標にこの手引きを作成しました。仲間が少ない、もっと仲間を増やしたいと考えている青年会員の方は、本日同封の資料を活動の参考にして下さい。

懇 親 会

3 F 「水明」 於



第2日目

次年度開催地挨拶（磐田ユネスコ協会）

会長挨拶 鈴木 肇会長

創立年月日：1960年(昭和35年)4月18日

会員数：77名 名誉会員1名 賛助会員13名 団体、個人会員63名(内青年会員13名)

磐田市 人口：170,000人弱
面積：163.4km²
工業都市：ヤマハ等
サッカーチーム：ジュビロ磐田



2019年度中部東ブロック・ユネスコ活動研究大会 in 磐田

開催日：2019年11月9日(土)・10日(日)

第69回定時総会における組織関連の決定事項及び報告事項

日本ユネスコ協会連盟 事務主任 尼子 美博



① 2020年度以降の全国大会の実施について

全国大会を継続するにあたっての課題

・全国大会が継続できない危機を迎えている。

2020年を含め、それ以降、開催を引き受けていただけるユネスコ協会がない。

決定事項

1. 引き続き毎年全国大会を実施。
2. 大会の主管を9ブロックの輪番制にする。
3. 開催地ユ協の負担軽減のため、原則一日開催。
4. 支出額の上限を定め実施。懇親会は受益者負担とし赤字を出さないよう徹底する。
5. 協会の活動や支援団体に対する表彰制度を導入する。

② 2020年度以降のブロック研究会の実施について

ブロックの研究会を継続するにあたっての課題

・主管ユネスコ協会の負担が大きい。

表-2020年度以降の輪番制(仮)

年度	担当ブロック
2020	中国ブロック
2021	関東ブロック(東京以外)
2022	近畿ブロック
2023	中部東ブロック
2024	四国ブロック
2025	中部西ブロック
2026	九州ブロック
2027	東北ブロック
2028	関東ブロック(東京)
2029	北海道ブロック

- ・ユネスコ協会がない、もしくは協会数が少ない都道府県もあり、研究会の継続が難しいブロックもある。
- ・全国大会とブロック研究会の位置づけの明確化が求められる。

決定事項

1. 全国9ブロックで毎年継続。
2. 会員の研修を主な目的とする。また、会員の交流、開催地におけるユネスコ運動の周知や活性化も目的とする。
3. 原則一日開催とし、日ユ協連セミナーはブロ研では行わない。
4. 支出額の上限を定め実施。懇親会は受益者負担とし赤字を出さないよう徹底する。
5. 参加費の下限を原則3,000円とする。
6. 日ユ協連は毎年4、5月頃に全国の会員を対象とした「実務担当者セミナー」を実施。

③ 2020年度以降の機関誌について

機関誌継続にあたっての課題

- ・組織関連支出が4種の会員の収入総額を大きく上回っている。
- ・機関誌が組織関連支出の多くを占めており、現在の発行・発送形態の見直しが必要。
- ・電子媒体の進展を見据え、日ユ協連ではデジタル化を推進してきている。
- ・他団体においても機関誌の発行形態の議論が進んでおり、WEB搭載に切り替えている団体もある。

決定事項

- ・2019年度から徐々に機関誌をWEB掲載へ移行。
1. 機関誌は2020年度から年3回WEB掲載、活動レポートを年1回全会員に直送。

暫定措置

WEBでの購読が難しいとの意見を受け、構成団体会員に対し、2020年度まで下記条件で紙媒体での機関誌送付を行う。

- (1) 会員数分の機関誌を事務局へ一括送付する。
- (2) 実費として機関誌1号・1部につき〇円を会員に請求する。

報告事項

来年の総会での審議事項

—構成団体会員の会費について

会費をめぐる課題

- ・4種の会員の収入総額を組織関連支出が大きく上回っている。
- 支出と収入の均衡を中期的にはかる必要がある。

現在行われている議論

1. 会員増強キャンペーンの実施
 - (1) 日ユ協連がさらなる企業や個人の協力促進をはかる
 - (2) ユネスコ協会・クラブの会員増
 - (3) ユ協会員が日ユ協連の個人会員となることを促進
 - (4) ユ協会員へ「月1いいことプログラム」募金への協力をお願いする
2. 構成団体会員の構成員一人あたりの会費値上げ
 - 1,000円→1,500円に値上げする。会費値上げで900万円の収入増を目指す。
3. 1及び2の施策で計2,100万円の収入増を目標とする。

※上記事項は決定事項ではなく、2019年度に議論を進めることとしている。



いまさらですが… 世界寺子屋運動ってなあに？



なぜ、私たちは民間ユネスコ運動独自の日本発「世界寺子屋運動」を始めたのだろうか？

2

世界寺子屋運動 誕生

- 1987年 故マイケル・ジャクソン氏来日オークション売上げを寄付
- 1988年 識字事業への募金を目的とした全国統一キャンペーン開始
- 1989年 「世界寺子屋運動」開始
「書きそんじハガキによる募金方法」生まれる
- 1990年 国際識字年
「万人のための教育」世界会議



文字を知ること（識字）

文字を知ること、人間としての自覚を得る。権利を知り、文明を知り、創造に加わる。周辺の風景が変わって見える。内なる識字である。

文字を知ること、貧困から脱出する。飢餓を逃れる。人口爆発をおさえる。死に瀕した子どもを救う。だまされて経済的な不利を受けないようになる。外なる識字だろう。

読書村『識字 すべての人に文字を』（1990年7月）発行書

6

初期の活動内容 1990-2000

- 万人のための教育（EFA）中の識字教育への民間ユネスコ運動としての協力
- 支援先のNGOの既存のプロジェクト支援と対等な立場での協力
- 日本の国際理解教育への生きた教材の提供
- 訪問や招聘を通じた顔の見える関係の構築
- 書きそんじハガキを通じたファンドレイジング

7

活動内容の変遷 2001-2010

- 点（支援先のNGOの既存のプロジェクト）の支援から面の支援への展開
⇒国や対象地域をしぼり、当該国政府の教育方針に照り、世界寺子屋運動固有のモデル開発
- JICAの協力による大型プロジェクトの展開
「ベトナム北部山岳地域成人識字教育振興計画」（2000-2003）⇒ 2005年ベトナム政府が教育法を改正し、寺子屋が国家の教育制度の中に位置づけられる
「アフガニスタン復興支援のためのノンフォーマル教育普及プロジェクト」（2003-2006）

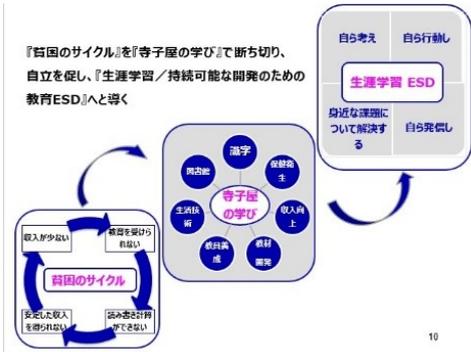
8

活動内容の変遷 2011-現在

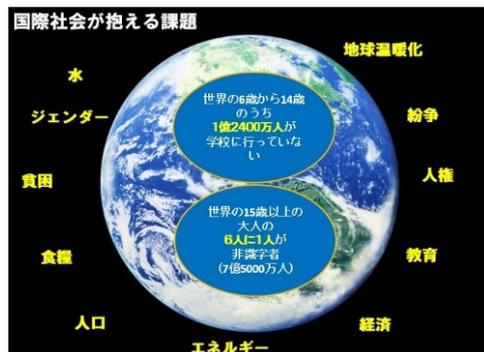
- 当該国政府のNFE教育政策にも影響を与える存在に。
 - ①カンボジア教育省との覚書に基づき、カンボジア教育省に協力し、「CLCマニュアル」の作成、「復学支援クラス」のパイロットプロジェクトの実施 ⇒日ユ協連が実施した後、全国展開に。
 - ②アフガニスタン教育省のカントリーレポートに日ユ協連のCLCにおける識字活動について明記される。

9

『貧国のサイクル』を『寺子屋の学び』で断ち切り、自立を促し、『生涯学習／持続可能な開発のための教育ESD』へと導く



10



世界寺子屋運動セミナー

世界寺子屋運動のかかわり

名古屋市立北高等学校 1年 林 航成



カンボジアスタディーツアー

- 主催 公益財団法人 日本ユネスコ協会連盟
- 共催 公益財団法人 かめのり財団
- 目的

1. その国の文化や歴史、人びとの生活、識字教育の現状と支援に対する理解を深める
2. 帰国後、その経験を生かして、地域や学校での報告を通じて、国際社会、地域社会の様々な課題解決に貢献する若者となる
3. 参加者や現地で出会う方々とのネットワークを作り、この経験を個人の範囲でとどめるのではなく、国際的な広がりを持ったネットワークとして今後を生かす

研修日程

- 8月4日(土) 午後：事前研修会(成田)
- 8月5日(日) 渡航日
- 8月6日(月) 在カンボジア日本大使館、プノンペン市内視察
- 8月7日(火) UNESCO プノンペン事務所、シェムリアップへ移動
- 8月8日(水) 日本ユネスコ協会連盟カンボジア事務所、寺子屋訪問
- 8月9日(木) 世界遺産アンコール バイヨン寺院にて石造修復体験
- 8月10日(金) ラップアップミーティング、市内視察、現地出発
- 8月11日(土) 午前：帰国

(教育の崩壊)

★ポル・ポト政権下での恐怖政治

教育者不足 教師は知識人とみなされ、多数虐殺される

教室不足 学校を次々に破壊

教材不足 教材や本を焼却

学校、教材だけでなく、教師も失う

(ポル・ポト政権後の教育の現状)

※国民の半数が1日2ドル未満の収入で生活

※貧困層は828万人と推定 2011年アジア開発銀行

貧困

- ① お金がなく、教材を買えない
- ② 貧困層の多い地域には学校がない
- ③ 貧困層の家庭が、教育の必要性を感じていない

+

教師・教室不足

- ① 教員の大多数が殺害された
- ② 焚書政策により、書物の大半を失う
- ③ 内戦で多くの学校が破壊された



2011年就学率

小学校で約77%

中学校で約42% (極端に低い) 外務省HPより



寺子屋を見にカンボジアへ行って来ました。

柏ユネスコ協会青年部 布施 夢紀

カンボジア寺子屋モニタリングツアー



- ・ 日程 2018年3月18日(日)~3月22日(木)
- ・ 旅の目的

☆カンボジアにおける「世界寺子屋運動」の現場見学や現地の人々との交流を通して、国の文化や歴史、識字教育の現状や支援に対する理解を深める。

☆全国でユネスコ活動へ協力していただく方々に世界寺子屋運動や世界遺産事業の様子をどのように伝えたらよいか、アイデアの発想を試み、将来のフィードバックについて検討する。

日本からシェムリアップへ

成田空港で今回のツアーに参加する、熊本、大分、富山、札幌ユネスコ協会の代表の皆さんと、日ユの関口さんと尼子さんと初顔合わせしました。
成田空港を出発し、カンボジアの首都プノンペンを経由して、途中ハブニングもありましたが、シェムリアップへ到着しました。



日本ユネスコ協会連盟カンボジア事務所へ

寺子屋へ行く前に・・・
日本ユネスコ協会連盟カンボジア事務所へ行き、プッタ所長からシェムリアップ州における寺子屋の活動の説明を受けました。



事前説明からわかったこと

シェムリアップ州の識字率 **48%(2008年)**→1998年は**46%**

寺子屋が果たす役割

- ・ 生活の質の向上
- ・ 人々の自立
- ・ コミュニティ【村】の発展
- ・ 村の連帯と団結の推進

寺子屋＝公民館

実際の活動

- 収入向上プログラム
- 復学支援プログラム
- 識字クラス
- コミュニティ図書館
- コミュニティ幼稚園プログラム
-etc



収入向上プログラム

「収入が増えて、旦那さんにも褒められてうれしい☺」とプログラム参加者は語ってくれました。
このプログラムは、女性の社会進出にも貢献できているのだと実感しました。



復学支援プログラム

- ・ 初等教育をリタイアしてしまったことのための特別なプログラム
- ・ 小学校教育を2年間に詰め込んだカリキュラムになっている。
- ・ このカリキュラムを受けて終了試験をクリアできると中等教育が受けられます。



識字クラス【サテライト寺子屋】

15歳から45歳の読み書きができない大人を対象に、クメール語の基本的な読み書きや、計算を教えるクラス



識字クラス【サテライト寺子屋】

学習の内容では、人々の生活に直結するテーマを用いて、字が読めるようになるだけでなく、生活の知恵をつけられるように工夫されていました。



モニタリングを通して実感したこと

- ・ 寺子屋が人々の生活の中心となっている。
- ・ 寺子屋を通して、人々は自立に向けて努力している。
- ・ 寺子屋に通う人々は学ぶことに楽しさを感じている。





諏訪ユネスコ協会

「中部東ブロック・ユネスコ活動研究大会 in 諏訪」報告書

発行日／ 2018年12月15日(土)

発行／ 諏訪ユネスコ協会 会長 矢崎 靖雄

〒391-0002 茅野市塚原 2-11-11 ☎0266-72-2650

編集／ 諏訪ユネスコ協会 編集委員会

矢崎 靖雄 濱 三千治 木村 紀穂 安藤理恵子 濱 善 夫

五 味 功 横 森 英 子 谷 澤 信 憲 濱 勝 也 (編集責任者)

編集後記

台風24号接近により開催が危ぶまれましたが、無事開催することが出来ました。また、2日目は台風上陸予想によりスケジュールを変更し早めに閉会となりましたが、すべてのプログラムを消化して無事閉会することが出来ました。午後3時には電車も止まってしまい、早めに閉会して本当に良かったと思えました。

たくさんの後援・企業広告・企業及び団体からの協賛金をいただき、大変ありがとうございました。皆様方のご支援とご協力に感謝し、厚くお礼申し上げます。

最後に、諏訪ユネスコ協会のスタッフの皆様お疲れ様でした。

濱 勝也